

長野県食と農業農村振興審議会長野地区部会議事録

1 日 時

令和2年7月29日（水） 10:00～12:00

2 場 所

長野県長野合同庁舎 501 号会議室

3 出席委員

青木三枝氏（長野県農村生活マイスター 長野支部長）

清滝真彦氏（農業士協会上高井長野支部長）

小池宏明氏（ながの農業協同組合常務理事）

安藤猛氏（グリーン長野農業協同組合常務理事）

絹川千代氏（長野市暮らしを考える会元会長）

塩崎仁志氏（(株)長印須坂青果市場取締役部長）

矢幡和香子氏（味ロジック株式会社 代表取締役社長）

櫻井伸一氏（長野市農林部次長兼農業政策課長）

富岡広記氏（小布施町産業振興課長補佐）

4 次 第

(1) 開 会（長野農業農村支援センター企画幹兼技術経営普及課長 小林健次）

(2) あいさつ（長野農業農村支援センター 所長 吉田新一）

(3) 議 事（議長：部会長 小池宏明）

ア 長野県食と農業農村振興の県民条例について

イ 第3期長野県食と農業農村振興計画について

ウ 令和元年度長野地域の取組実績について

エ 令和2年度長野地域実行計画について

（ア～エの説明 事務局：長野農業農村支援センター課長補佐兼係長 三井光）

オ 意見交換

(5) そ の 他

(6) 閉 会（長野農業農村支援センター企画幹兼技術経営普及課長 小林健次）

5 意見交換

<小池部会長>

意見交換に移らせていただきたいと思います。説明がありました、令和元年度の取組実績と2年度の実行計画につきまして、委員の皆様それぞれのお立場から3分程度で一人ずつご意見、ご提言、ご質問等々をお願いできればと思っております。大変恐縮ですが、委員名簿の順にそれぞれご発言いただいて意見交換をしていければと思っております。

なお、内容によっては事務局からそれぞれご返答等をいただく場面もあろうかと思いませんけれどもよろしくお願ひします。

それでは申し訳ございません。順ということですので、まず、農業者の代表ということの区分の中で、青木委員から順にお願いをできればと思います。よろしくお願いします。

<青木委員>

長野県農村生活マイスター協会長野支部の青木です。

私は花卉のミシマサイコを栽培しています。

近隣で農地付き住宅等での I ターンの方の園地に鳥獣被害が多い。ネットなどいろいろ対応しているが、思ったように防除ができないことから、何か支援策がないか教えてほしい。

<吉田所長>

園地を囲むことが 1 番良いと考えるが、家庭菜園なども含めた地域全体を囲むような長野市の対策担当課に要請していただくことはいかが。

<小池部会長>

続いて清滝委員をお願いします。

<清滝委員>

農業士協会の清滝です。

20 歳代～40 歳代の農家が増えているが、それ以上に離農される方や担い手が受け持つ農地より廃園になる農地の方が増えている状況がある。今年の台風被害もあり、より加速している。

普段は機械で作物を栽培しているが、河川敷内で荒廃農地が増えているので、それをどうにかするため、人手や機械が必要である。我々もいろいろやっていきたいので、それに合わせて支援も必要と考えている。

今後の農地の集約については、地道ではあるが、関係者と協力しながらやっていきたい。

<吉田所長>

特に長野地域は、河川敷内の果樹の課題がある。グループなどを作り、担い手として支援していきたい。

果樹については、機械化が難しく困難な課題もあると認識しており、集団で出来る新技術が必要と考える。

河川敷内における荒廃地の対策が大きな課題となっている。

浸水する場所での果樹はリスクが高いと考えられることから、河川敷内での果樹を担い手に任せるのはリスクが多く、酷であり、畑作にシフトしていったほうが良いと考える。よって、堤内で果樹の集団化をしていくといった補助事業等の支援を関係機関と考えていきたい。

<小池部会長>

農業関係団体代表の安藤委員をお願いします。

<安藤委員>

グリーン長野農協の安藤です。

管内の農家には、河川敷内の農地を活用していただいて感謝している。

現在、桃の植え替えを 17ha しているが、長芋も 40ha あり、台風被害の復旧を進めて面積を維持していきたい。復旧に対する長野市や長野県の支援には感謝している。国の災害関連支援事業に出来るだけ協力して取り組んでいきたい。被災した農機具が非常に多くあったが、事業により新しい機械施設等が導入でき喜ばれているところ。

果樹の新品目も導入していただきたいが、りんごについては、この 20 年間低迷したままとなっている。桃で 10a 当たり約 100 万円、ぶどうは約 200 万円の売り上げに比べ、りんごは価格が低迷したままなので、りんご栽培面積が減っていることから、りんごの良さをアピールしていきたい。JA ながの、JA グリーン長野、JA 中野市も含めて北信地域は果樹王国であるので、本計画の推進を図っていただきたい。

当地は米の種籾産地でもあり、機械施設等の老朽化が著しいことから、今後支援をお願いしたい。

<小池部会長>

続いて消費者代表の絹川委員をお願いします。

<絹川委員>

長野市暮らしを考える会の絹川です。

消費者代表として、大変なご苦勞をされている農家の皆様には感謝している。

私もお米を作っているが、農家全体はもちろん担い手自体も高齢化している。

学校給食の長野県食材の利用率約 50%とお聞きしましたが、消費者全体の利用率が分かれば教えて欲しい。

災害等も多く今後も長野県の取り組みや支援等に期待したい。次の世代の人が夢を持って農業に就いていただける事が私の願いです。

<吉田所長>

長野県の学校給食の県産食材利用率は 45.8%で、半分以上にする目標である。一般消費者の地元産食材利用率は全国平均が 38%で、長野県は 51%となっており比較すると米穀類など、長野県産の消費が多い。

<小池部会長>

続いて流通業者代表の塩崎委員お願いします。

<塩崎委員>

長印須坂の塩崎です。

流通の代表として、災害復旧に対する支援等について感謝申し上げます。

昨年の台風災害に引き続きコロナウイルス感染症ということもあって、青果物流通について非常に心配していたところ。観光に関わる宿泊関係の消費がないところに学校給食もない、外食もないことから食品流通関係者として非常に心配していた。しかし、蓋を開けてみるとスーパーなど家食に関わる場所の消費が増え、全体とすると青果流通全体では、思ったよりも大きな影響を受けていない状況である。現在の天候不順も含め青果物が高い状況となっている。

人が生きていくため、食べなくてはいけない食の大切さ、一次産業の作る大切さを改めて感じている。作り、消費し、食べていく大切さを見直した生産活動に取り組んでいただきたい。コロナウイルス感染症によるピンチではあるが、チャンスに変えて、新しい風を吹き込み、できるだけ協力しながら取り組んでいきたいと考えています。

<小池部会長>

農産加工代表の矢幡委員お願いします。

<矢幡委員>

坂城町で農産物加工をしている味ロジ代表の矢幡です。

野菜や果物の加工、販売を直売所や食堂でしていますが、食堂はコロナの関係で閉鎖中であり、売り上げがガタ落ちでした。学校給食では、学校が閉鎖になった時には、おやきを処分したこともありました。商品を地元企業にお中元などに使っていただき何とか販売が回復しつつあります。

従業員は子育て中の女性も多く、学校が休みの間、従業員が少ない時期が2ヶ月ほどありました。この時間を有効に活用し、新しい風を吹き込むため、新商品開発に力を入れました。ほぼ添加物を使わない加工品を作っていますが機械化が難しく手作りなので大量には販売できません。

今年からは地元の「ねずみ大根」を生産者と契約購入するようにしました。仕入価格が若干高くなりましたが全量の半量ほどを契約とすることで、契約農家には励みとなり、非常に品質の良い野菜を納品していただいています。農家にはとにかく作っていただかないと加工もできないので、ぜひ伝統野菜となっている「ねずみ大根」も含め生産支援をお願いしたい。

学校給食では、利用機会のあった栄養士さんが学校を異動した先でも使っていただける

ようになったこと、

添加物のない商品は賞味期限が短いため遠くには出荷できないが、女性たちが手作りでがんばって作ったものを地元中心に販路開拓し、関係者とつながりを持っていきたいと考えています。

<小池部会長>

市町村代表の長野市櫻井委員をお願いします。

<櫻井委員>

長野市の櫻井です。

台風被害の復旧に関して御礼申し上げます。

長野県と同様に、長野市農業振興条例において、農業アクションプランを策定しており、1つは「多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進」、2つ目に「地域の特性を活かした生産振興と販売力強化を推進」とし、この中に個別に40事業を推進しているところ。長野市の計画をしっかりと進めることで長野県の目標達成にも寄与できるものと考えております。

先の意見にあった有害鳥獣について、長野市では若穂地区で平成25年度から国庫事業で取り組んでおり、現在25.4kmの侵入防止柵を設置し、今後20kmを予定しているところ。長野市単独事業の防護柵導入事業もあることから後日、担当課から連絡いたします。

昨今は気象災害多発もあり温暖化が影響していると考えています。果樹であれば、りんご、桃、ぶどうなどの品目だけで良いのか不安を感じてことから、温暖化に対応できる品目、品種等の模索を進めてほしい。

<小池部会長>

小布施町の富岡委員をお願いします。

<富岡委員>

小布施町の産業振興課の富岡です。

小布施町については、台風災害に関わる河川敷の排土処理が6月に終了したところ。

小布施町の農家は、河川敷内の作物は、桃などから栗の方が良いと考える人も多く、また、市場出荷に加え、直売所や個人での宅配などが多い模様。荒廃地は少ないが、集約化に向けた取り組みの中では、ぶどう「シャインマスカット」の畑だけは、農家も手放さないことから流動化せず、栽培面積も増えている状況である。

規模の小さい町なので市場や農協と連携しつつ、民間の加工業者も衛生管理上確実と考えており、連携していきたいと考えている。

<小池部会長>

現在、若手の担い手が栽培面積を受け切れない状況がある。

農業が楽になるスマート農業の推進が重要と考えるが、コストがまだ高く、補助事業ばかりに頼るわけにもいかない。モデル園の設置などの見える化の取り組みを進めていただきたい。

<吉田所長>

温暖化については、2050年までに平均気温が3度上がると言われている。長野県としては温暖化対策の研究開発について、2つの方向性で取り組んでいる。1つは着色しやすいりんごなどの「品種開発」、もう一つは表面温度を上げないようにするなどの「栽培技術」の開発に努めているところ。りんごであれば着色の良い「シナノリップ」、米で言えば「風さやか」は標高の低い所でも栽培できるなどの品種開発に取り組んでいる。長野県は全体に標高が高い産地であり、りんごの産地として生き残る可能性が高いと考える。ただし、今の品種で良いのか？など、今後も研究を進めていく。

コロナウイルス感染症の景気対策に関し、新商品の開発など6次化や地域内流通が大切であり、伝統野菜等の契約栽培への取り組みなど非常に良いと考えている。

スマート農業について、開発当初は非常にコストが高いため、長野県の事業としても費用対効果を考えつつ採算が合う農業となるよう検証中である。土地利用型作目であれば、結果が出てくると思われるが、果樹については、ロボット草刈機やドローン防除等の検討をしているが、担い手不足を解決できるところまでは進んでいない。

農地の集約化については、長年取り組んできているところ。今後も知恵を出し合って連携し、答えは1つではなく地域ごとの答えを探していかなければいけないと考える。

本日の委員からの意見を長野県食と農業農村振興計画に活かしていきたい。

<小池部会長>

委員の皆様には非常にご熱心にご審議をいただき御礼を申し上げます。

本日、委員の皆様から提案されました意見、要望等につきましては、事務局におかれましては、県へ審議会の報告、それから計画実現に向けた施策の実施をいただきまして、関係機関団体と連携した支援の中で、食、農業、農村この理念の浸透に努めていただくようお願いします。

以上、議事を終了し、議長を退任します。